

# スズメバチに刺されないために

～野外活動中の事故を減らそう～

丹羽真一

正月早々、ハチに刺されるなどという話題で恐縮ですが、一年中藪ごぎに明け暮れる私は、初詣に行けば「今年は（も）刺されませんように」とお願いしています。今年もよい一年でありますように、という意味を込めて今回はスズメバチについて書いてみました。

## ■はじめに

スズメバチネタはテレビでも確実に視聴率が取れるそうで、時期になると似たような番組がいくつも放送されます。しかし、どうも浅薄で扇情的な作りが気になります。スズメバチが身近に増えているのは確かとしても、あんな番組にかじりついてしまうなんてどうかしている…。どうも日本人が持っていたハチに対する「民衆知」（経験の蓄積や伝習によって巷の中に自然に作られる知識）が失われていることが背景にあるように感じられてなりません。

私は今までずいぶんハチに刺されてきました。学生のころはそれこそ毎年のように痛い思いをしてきました。ところがこのころは2～3年に一度しか刺されなくなっています。今のほうが不慣れな土地を歩くことが多いにもかかわらずです。これはたぶん偶然ではありません。臆病で痛いのが大嫌いな私は、ハチにやられないようこっそり努力してきました。まだ確信には至りませんが、その成果が現れているのではないかと思います。今回はそんな私のスズメバチ対策を紹介したいと思います。

日本にはスズメバチに関する優れた解説書も多く、近頃ではウェブサイトも充実し



ケブカスズメバチ♂



トガリフタモンアシナガバチ



モンスズメバチ♂

ています。その一部はこのコーナーの最後に紹介していますので、スズメバチの詳しい生態などはそちらをご参照ください。

## ■フィールドワーカー最大の危険要因

野外調査業に携わる私にとってスズメバチは大きな脅威です。あの強烈な痛みは、何度体験しても決して慣れることはありません。むしろ、刺されるたびに恐怖体験が

蓄積されていくかのようです。野外調査を仕事にする以上、ハチに刺されるのはある程度宿命的是であります。しかし、命に関わることもあり、フィールドワーカーにとっては交通事故と並ぶ大きなリスクといえます。



ツヤクロスズメバチ♂

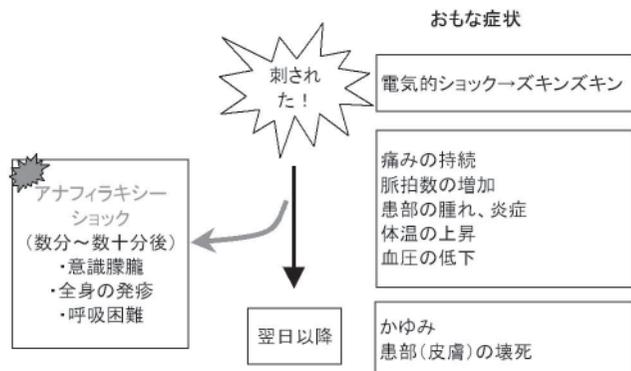
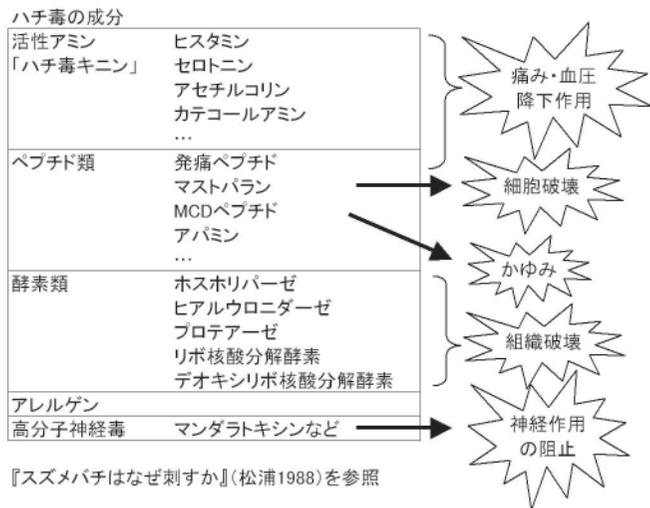
ハチの毒が蟻酸といわれたのは過去のことで、実際にはさまざまなタンパク毒が混合されているといわれています。痛み物質として有名なヒスタミンやセロトニンを始め、細胞や組織を壊す物質、神経作用を阻害する物質などが含まれており、とりわけ人間を含む哺乳類へのダメージを狙ったものであることが示唆されています。運悪く、ハチアレルギーを持った人が刺されてしまうと、アナフィラキシーショックといわれる重篤な症状を引き起こすことがあります。



ヤドリホオナガスズメバチ♀

ハチ毒については『スズメバチはなぜ刺すか』（松浦 1988）に詳しく解説されていますし、この本の巻末にはハチ毒に関する参考文献も挙げられているので、興味のある方はぜひそちらをご参照ください。

スズメバチに刺された痛みは、刺された経験がある人には特に説明はいらないでしょう。しかし、刺されたことのない人にどう痛いかを説明するのはとても難しいことです。刺された瞬間「バン！」と痛くて（チクではない）、その後「ズキンズキン」して、気持ちも落ち込む…。これではちっとも分らないと思いますが、ハチとしては相手を倒すことが目的ではなく、言葉の通じない相手に向けた、「即刻立ち去れ」「二度と近寄るな」というメッセージと読むことができます。



## スズメバチ類の毒量、攻撃性、刺したときの痛み比べ

	1匹当たりの 毒液の量	攻撃性 の強さ	痛みの 強さ
オオスズメバチ	4.1	1位	1位
モンスズメバチ	2.0	3位	2位
キロスズメバチ(ケブカ)	2.0	2位	3位
コガタスズメバチ	1.6	4位	5位
チャイロスズメバチ	--	--	4位
ヒメスズメバチ	1.1	5位	5位
クロスズメバチ	--	--	7位
ホオナガスズメバチ	--	--	7位
大型アシナガバチ	--	--	6位
小型アシナガバチ	--	--	7位

(単位はマイクロリットル)

『スズメバチはなぜ刺すか』(松浦 1988)を参照

### ■初めてスズメバチに刺された思い出

私は確か5歳のときに初めてハチに刺されました。古い話なのですが、そのときの情景は動画のまま、意外なほどよく覚えています。それはたぶん、あまりに痛烈だったために一瞬にして記憶が焼き付けられたのと、印象的だった場面を繰り返し思い出してきたからだと思います。

隣町のいとこの家に遊びに行っていた私は、5歳上のちょっと悪ガキで面倒見のよいいとこにくっついていました。そのときはほかのいとこや近所の男の子5人ぐらいがいて、遊びが盛り上がりかかってきたところで、「これからみんなで面白いことをしようぜ」ということになりました。「面白いこと」とはハチの巣をみんなでやっつけようというもので、彼は隣家の納屋の裏にあるハチの巣を前もって見つけていたようです。いかにも男の子が好きそうな、スリルのある「とっておきの遊び」だったのです。

ハチの巣は納屋の軒下ではなく、壁にくっついていました。巣の形については記憶がなく、スズメバチだったのかアシナガバチだったのか、はっきりしません。納屋のうしろ側は畑になっていて、納屋の壁に対し

うね(畝)が平行に並んでいました。収穫の終わった直後なのか、畝に作物はなく、乾いた土塊が転がっていました。私たちは畝の低みに並んで、少しだけ身を隠したつもりになって巣と対面しました。そして手ごろな土塊を拾っては蜂の巣に投げて攻撃し始めました。しばらくして、私は手の甲に激しい痛みを感じました。ハチの姿は記憶になく、痛みというよりも驚きに近いものとして残っています。

私が泣きわめいたので、攻撃は中止になり、私は泣きながらいとこの家に帰りました。家には伯母がいて、すぐに傷口を水道で洗い流してもらったのを覚えています。今思おうと、私の地元(名古屋近郊)ではハチは身近な生き物で、刺される人も多く、小さな子どもが刺されてもあまり慌てることはなかったようです。幼かった私も、伯母の落ち着いた対応をみて、パニックにならずに済んだのかもしれない。ただ、子どもの世界では、だれかが犠牲になることでハチへの現実的な恐怖感を共有できたのではないかと思います。

その後、私がハチに気をつけるようになったのはいうまでもありませんが、小学生に



直径 40cm を超えるケブカスズメバチの巣



巣盤がむき出しのモンズズメバチの巣

なってクワガタムシやカブトムシを採りに出歩くようになると、再び手痛い経験を何度もするはめになりました。気をつけるといっても何に気をつければよいか全く分からず、結局私も家族も、「ハチに刺されるくらいはしょうがない」と思っていたのです。

---

### ■どんなハチが刺すのか

---

人に刺傷を負わせるのはほとんどがスズメバチやアシナガバチの仲間ですが、ミツバチやマルハナバチの仲間も人を刺すことがあります。これらはみな、家族生活を送る社会性昆虫で主に巣の防衛のために攻撃します。また小型のハナバチも、まったく刺さないわけではありません。私は野外で花の調査をしていて、ノートの上にいたコハナバチを気付かないうちに手で押さえてしまい、刺されたことがあります。傷口の腫れはたいしたことはありませんが、痛みはそれなりにありました。なお、アリの仲間は、刺すことはありませんが、皮膚にかみついてそこに毒液を吹きかけることがあります。森のなかを歩いているときに気付かないうちに小さなアリが襟元に入り込んでしまい、首筋をかまれた経験は多くの方が持っているのではないのでしょうか。

小さなアリでもハチと同質の痛みがあります。

---

### ■北海道のスズメバチ類

---

スズメバチには大型のスズメバチ属のほか、小型のクロスズメバチ属とこれによく似たホオナガスズメバチ属がいます。また、アシナガバチ類もスズメバチに近縁です。グループごとに特徴がありますが、グループ内でも種によって違いがあります。

日本にはスズメバチ属が7種いて、このうち5種が北海道にいます。世界最大のスズメバチ、オオスズメバチも道内にいますが、本州以南に比べてかなり少ない印象を受けます。北海道でもっとも多いのはキイロスズメバチで、北海道のものは亜種ケブカスズメバチとされます。数が多いのに加えて攻撃性が強いので、本種による刺傷事故はかなり多いといわれています。

一方、北方系とされるクロスズメバチやホオナガスズメバチの仲間はみな小型で、全体に黒っぽく、細長い体形をしています。私の場合、子どもころはもっぱらアシナガバチに刺されていましたが、北海道に来てからはクロスズメバチの仲間によく刺されています。



ホオナガスズメバチ類の初期巣



倉庫の近くに作られた巣

### ■興味深いスズメバチの習性

スズメバチは現在、強い関心を持たれています。でもそれは、人をも倒しうる毒ゆえで、あくまでネガティブなものです。「殺人バチの恐怖」「巨大バチ、児童を襲う」など、やみくもに恐怖心をあおる報道も目につきます。たぶん最近ハチに刺された経験のない人が増えており、非現実的なまでに恐怖感が増幅してしまう土壤があるのではないのでしょうか。

しかし、スズメバチは単に恐しいだけの昆虫ではありません。生態系における捕食者としての役割や害虫を食べてくれる益虫としての役割なども見逃せませんし、スズメバチが作る巣には不思議な魅力があります。それは、昆虫が作ったとは思えない、面白い形と美しい模様を持っています。古い旅館に行くと動物の剥製などと一緒に、空になった巨大なハチの巣が飾られていることがあります。趣味の良し悪しはともかく、ハチの巣が装飾品として価値があるとみなされてきた証拠です。

スズメバチの巣はたいてい球形または楕円球形をしています。種類によって特徴があります。コガタスズメバチの初期巣は、徳利をひっくり返したような姿をしています。また、女王バチが単独で同じ場所から



コガタスズメバチの初期巣（金上由紀さん撮影）

巣材集めをしているので、ほとんど縞模様が現れていないことにも注目です。一方、モンスズメバチの巣は外被がカーテン状で、巣の下側が大きく開いています（前ページ右の写真の巣は強風で外被が取れてしまっている）。

また昨秋、私の家の庭で、青と茶のしま模様が入った大変美しいスズメバチの巣が見つかりました。薄い灰色と濃い灰色、そしてハチの巣には珍しい茶色と青色からなります。茶色の部分は近くに生えるニオイヒバカイチイの樹皮ではないかと思われるのですが、青色の部分の原材料は不明です。青く塗装された木材かダンボールではと思っ

ています。カラスが巣に人工物を使うように、住宅地に住むスズメバチは、ウッドデッキやラティスなどから巣材を拝借しているのかもしれませんが。

---

### ■スズメバチはどんな場所に巣を作るか

---

どこにマイホームを構えるかは、私たち人間にとってもスズメバチにとっても、大変重要な問題です。ハチが巣を作るのに適した場所とは、天敵からの攻撃のほか、強風や浸水を回避でき、手近でえさ集めがしやすいということになります。私たちが防犯や防災、通勤・通学のことを考えて家を購入するのに似ています。ハチの種類によっても若干違いますが、一般に、枝のこみ合った茂み、樹洞、人工物のかけやすき間などが営巣場所として好まれます。つまり、ハチの世界では通勤の利便性より、防犯や防災が重視されているのです。こうしたハチの習性を知っておくことは、ハチに刺されないようにする上で重要です。

ハチがホームセキュリティに熱心なのは、それだけ巣が「強盗」に狙われやすいからです。強盗とは、哺乳類やハチクマ、自分より大型のスズメバチなどの天敵たちです。また、女王ハチが死んで働きバチが消えたスズメバチの巣は、すぐ野鳥などによって壊されてしまいます。鳥は巣に残っている幼虫やさなぎを探しているようで、キツキらしいくちばしの跡が付いていることもあります。こんなところからも、多種多様な動物がスズメバチの巣を狙っていることが分かります。さて、その中でも人間はスズメバチの最大の天敵と言われています。スズメバチは防犯対策の一貫として、なるべく人間との摩擦を避けようとして営巣場



人工物を利用して作られた巣（外被）



壊されたスズメバチの廃巣

所を選んでいるはずですが。人間がハチに刺されてしまうのは、不注意で巣に近づいてしまう人間にも一因がありそうです。

ハチは防災にも気を遣います。それは、何ヶ月もの努力が一瞬にして無になってしまう怖さを進化の歴史のなかで嫌というほど経験してきたからでしょう。秋に台風が通過した後に森を歩くと、しばしばスズメバチの巣が風で地面に落とされているのを見かけます。巣の柄がちぎれていることもあるし、巣のついた枝ごと折れてしまっていることもあります。最盛期の巣はかなりの重さになるので、強風を受けると壊れたり落ちたりしやすいのです。私の観察では、木の枝にかけられた巣は、たいてい地上から3m以下にあります。もちろん梢に巣が

あっても簡単に見つからないという事情もありますが、高い位置ほど風で叩き落される危険が高まるからだと思います。

また、湿原では浸水の危険と隣り合わせです。湿原では少しの雨でも増水し、陸地だったところもたびたび水の下になります。一度でも浸水すれば巣は全滅してしまうので、地下はもちろん低木の茂みも営巣場所には使えません。そこで、湿原に棲むスズメバチは木の枝に営巣します。木なら何でもいいわけではなく、釧路湿原では好んでエゾノウワミズザクラに営巣しています。その理由として、エゾノウワミズザクラは周りより少し小高い場所に生えるので浸水しにくいこと、枝がよくこみ合い天敵に見つかりにくいこと、枝がしなやかで折れにくいことが挙げられます。エゾノウワミズザクラは8月下旬ぐらいから早々と落葉を始めるので、簡単にスズメバチの巣が見つかります。なお、同じ湿原に棲むアシナガバチの仲間は低木（ホザキシモツケ）や前年のヨシの茎などによく巣をかけています。もともとアシナガバチは開けた場所を好む性質を持っていますが、営巣期間が短く、9月の増水期に入る前に巣内活動を終わってしまうので、低い場所でも大丈夫なのでしょう。



アシナガバチの巣

## ■人工物に巣を作る事例

人工環境や人工物に営巣する例としては、人家の軒下、公園のあずまややトイシの中、道路の高架下がよく知られますが、私は電柱の足場や河川のコンクリート護岸の割れ目でも見かけています。このうち、ひと気のない公園のあずまやはスズメバチにとって格好の営巣場所です。屋根裏やベンチの下は巣を作るのにうってつけで、普段あまり見られないような巨大な巣が下がっていることがあります。また、10年ほど前に十勝三股の山中で、野鳥の営巣を観察しようとして仲間と巣箱を設置したところ、何と10個のうちの8個ぐらいにクロスズメバチの巣に占領されてしまったということがありました。なお、本州以南では住宅の屋根



高架下に作られた巣



電柱に作られた巣

裏や縁の下、雨戸の戸袋に入り込んで営巣する例が多いといわれますが、最近の北海道の住宅にはこうした隙間は少ないかもしれません。

---

### ■日本人とハチの伝統的なつきあい

---

近年、日本ではハチとの関係が希薄になりつつありますが、本当はもっと身近な存在だったはずです。まず、古い家屋にはハチが営巣できる場所が至る所にあり、実際にたくさん営巣していました。農家の納屋も同様です。そして、屋敷周りにスズメバチの巣が作られても、必ずしも駆除をしませんでした。むしろスズメバチの営巣もツバメと同じで縁起のよいこととされたようです（『スズメバチはなぜ刺すか』参照）。私の実家でも、敷地内のあちこちにアシナガバチの巣が作られていましたが、たいていはそのままにされていました。毎年家族の何人かが刺されているにも関わらずです。うちでは特に縁起がいいから棲ませておくという話は聞いたことがありませんが、ハチはいて当然という空気がありました。ただ、夏になる前に、家族どうして巣の位置を教え合っていたように思います。虫好きだった私は、毎年決まって巣作りする戸袋の下を、いつも恐る恐るのぞきこんで見っていました。先週まで平気だったのに、のぞこうとして刺されてしまった経験から、ハチには危険な季節があることを学んだように思います。

ところで、長野や岐阜などの内陸県でハチを食べる習慣があることは有名です。私は子どものころにイナゴのつくだ煮を食べたことがありますが、ハチ食は土地の習慣にありませんでした。しかし、私の伯父に長野県の出身者が一人いて、子どものころ

からハチの子を取って食べていたそうです。彼は、アシナガバチの巣から素手で親蜂を追い払い、幼虫を抜き取って生きたまま食べてしまいます。実を言うと、私も真似をして何度か生で食べたことがあります。どうしても噛むことができませんでした。ただ、巣に女王バチしかいないときは、巣を触ってもまったく襲われないということを学びました。

---

### ■スズメバチを安全に観察する

---

花と昆虫のかかわりに興味を持っている私は、ときどき花の上でスズメバチを見かけます。また、朽ち木の上で巣材を集めているスズメバチに出会うこともあります。こういうときのスズメバチはおとなしく、慎重にやれば10cm程度までカメラを近づけられることもあります。普段見れない生きた姿を間近で観察できるチャンスです。

スズメバチがよく集まる花としては、大型のセリ科植物やウド、サラシナショウマなどがあります。ハナバチ類と違ってスズメバチは花粉に興味はなく、蜜だけを集めています。私の家には勝手に生えて育ったウドやタラノキがあり、毎年花の季節には2～3種類のスズメバチがやってきます。こんな住宅地のどこかで営巣しているだ



巣材を集めるケブカスズメバチ

といつもながら感心します。

おとなしいとはいえ相手はスズメバチですから、各自の責任においてくれぐれも無理のない範囲で観察するようにしてください。樹液にいるオオスズメバチは、巣が近づくになくても襲ってくることもあるので近づかない方が無難です。



ウドの花に来たコガタスズメバチ

---

### ■スズメバチに刺されないようにするには

---

いよいよ本題に入りたいと思いますが、結論から言うと残念ながら完璧な防衛方法はありません。あくまで危険に出会う確率を下げることを目指すものです。

もっとも効果があるのは、巣の活動が活発な8月～10月上旬（道内の場合）は巣がありそうな場所に一切近づかないようにすることです。時には人家周りにも営巣することがあるので、これでも絶対安心ではありませんが、ハチアレルギーが疑われる人にはこれを徹底したいものです。私の場合は仕事柄、外に出ないわけにはいきませんから、危険な季節には次のようにして注意を払っています。

---

#### ★「人間が先に巣を見つける」

---

ハチがこちらに気付く前に、こちらがハチに気付くようにする。これが私のモットーです。ハチは基本的に自巣の防衛目的以外では攻撃してこないのです、これができればほとんどの事故は防げるはず。巣を見

つけるために私は、足元も含め辺りを常に見回しています。大切なのは、巣の形や大きさ、色などをいつでもイメージできるようにしておくことです。熟練すると、視界の中に人頭大の怪しいシルエットがないか半自動的にスキャンできるようになります。落ち葉がかかったクモの巣や、葉の付いた落枝に惑わされることもあります。この方法はかなり有効です。スズメバチの巣が発達して危険な時期というのは、広葉樹が落葉し始める時期でもあり、わりと見通しが利くのも助けになります。もちろんあまり速く歩いてしまうと情報が得られないので、危険な季節は普段よりゆっくり歩くように心がけています。

また、自分がこれまでに見つけたスズメバチの巣がどんな場所にあったかを思い出し、ハチが営巣しそうな場所を探します。枝の込み合った茂み、人工物のかげやすき間などは要注意です。また、飛んでいるハチの動きにも注意します。巣の近くはハチの数が多いため、同じ方向から何頭も飛んでくるようであれば、そちらに巣があるこ

とを疑ってみる必要があります。このようにして、私は毎年少なくとも 20 個はハチの巣を見つけています。

それと、ハチが一度営巣した場所は、翌年以降も営巣する可能性が高いといえます。自分がよく行く場所では、どこにスズメバチの巣があったかをよく覚えておくと役に立ちます。また、一度スズメバチが営巣した軒先などは、リフォームをしない限り、毎年駆除を要請する羽目になるかもしれません。

### ★ 「ハチの警戒行動を見逃さない」

こちらが気付かないうちにハチの警戒区域に入ってしまうことがあります。勢いよく近づいて巣を刺激するといきなり刺されますが、ゆっくり近づいた場合は、たいていまず威嚇を受けます。威嚇はアゴをカチカチと空打ちしたり、直線的に飛んできて目の前を左右に行ったり来たりします。衣服に何度もぶつかってきたり、2 頭以上のハチが自分の周りを飛び回るときも威嚇と考えると間違いありません。「これ以上近づくと撃つぞ」という恐ろしいサインですが、同時に「これ以上近づかなければ許してやる」というありがたいサインでもあるのです。こうしたハチのサインを見逃さないことが重要で、そのためにはスズメバチの羽音にも注意を払っておきたいものです。静かな森の中なら、スズメバチの羽音は結構よく聞こえます。ハチの興奮の程度にもよりますが、威嚇を受けても慌てず、それまで歩いてきた方向にゆっくり後退することです。後退しながら辺りを見回すと、たいてい巣が見つかります。

### ★ 「逃げる」

ササやぶなど歩いているときに、地下にある巣の近くを通ったりうっかり巣を踏んでしまったりすることがあります。台風などでたたき落とされた巣が足元に落ちていることもあります。すると、「ゴ—」とか「ウ—ン」といった低いうなり声のような羽音とともに、たくさんのハチが足元から湧き上がってきます。森の中なのにバイクの音がして変だなと思っていたら、ハチの群れだったということもあります。こうなると状況としては最悪で、たくさんのハチに刺される可能性があり、ハチアレルギーではなくても命の危険があります。一刻も早くその場から逃げなければいけません。このようなとき私は、転ばないことだけ気をつけて一気に 20 m ほど駆け出します。湿原のぬかるみなど足場が悪い場合はかなりひどい目に遭うかもしれませんが、密生したササやぶではハチも植生にじゃまされてすぐに顔の高さまでは飛んでこないことも多いので、若干の猶予が期待できます。

いずれにしても、常に警戒を怠らず、いろいろな状況を想定しておくことが重要です。2 人以上で歩くときは互いに警戒し合い、なるべく一列になって行動します。それから、異常に気付いたときの合図を決めておくのがよいと思います。山登り中に落石があった場合は「ラック！」と叫んで注意しますが、「ハチ！」か何か叫んでから逃げないようにしないと、残された人が危険にさらされてしまいます。

ハチは黒いものに攻撃するとよく言われます。私の経験からもこれは正しいと思います。腕時計の黒いベルト周りや眉毛、髪の毛の生え際などをよく刺されているからで

す。また警戒行動をするハチが黒のウエストバックに執着する様子も観察しています。ただし、白い服を着ていれば安全というのは間違いです。ハチの警戒区域に入って巣を刺激してしまえば、白でも何でも動くものは攻撃の対象になります。どちらが刺されやすいかという問題でしかありません。

そのほか、肌の露出を少なくすることはかなり有効です。また、ハチは意外にもカヤハエより薬剤に弱いので、いざというときにスプレー式の防虫剤を散布すると攻撃を弱めることができるといわれています。

ところで、確証はありませんが、私はシカ道に沿って歩くと比較的安全だと思えます。というのも、シカもうっかりハチの巣に近づけば刺されるはずで、そんな場所をシカが何度も通るはずがないからです。そういうわけで私は、新しい足跡や糞の落ちているシカ道をたどることがあります。ただし、最近も使われているシカ道であることが条件です。また、歩いているときのシカは人間よりもかなり低いので、上方にある巣には注意しなければなりません。

### ■ハチに刺されたときの対処法

不幸にして刺されてしまったときは、すぐに安全な場所まで逃げなければなりません。巣の近くにいる以上、ハチは攻撃をしかけてきます。安全な場所まで逃げるのができたら、応急処置をします。ポイズンリムーバーという道具を使うと、簡単に毒を吸い出せます。頑丈なスポイトのようなもので、傷口に当てて吸い上げると体液といっしょに毒が吸い出されるようになっています。見るからに単純な作りで、私は使うまであまり期待していなかったのですが、一度使ってみたところ、痛みの持続時間や

腫れの程度がとても軽減されることが分かりました。もちろん、時間がたってしまうと効果は薄いでしょうから、ポケットやウエストバックなどに入れて、すぐに使えるようにしておきます。登山用品店などで1000円前後で販売されています。

下山して何か異常や不安を感じるようなら、迷わず病院に行くべきです。とにかくショック症状に陥ることが怖いからです。聞くところによると、今はだいたいこの病院でも的確に対応してくれるようです。

なお、ハチアレルギーがある人は医師の処方せんがあれば、エピペンやアナキットという商品名の注射セットを購入することができるようです。これはハチに刺された際に自分で注射し、アレルギー反応が出るのを抑制するというものです。



ポイズンリムーバーと使い方

---

## ■終わりに～学校行事に伴う刺傷 事故の問題

---

多くの小学校では秋に遠足が行われていて、毎年必ずハチの刺傷事故が起きています。学校では下見などを行ない、安全に配慮はしているはずですが、これは防ぎようのない事故です。ハチの巣をすべて見つけることは不可能だからです。この季節に野山の遠足はやめたほうがいいと私は考えます。学校の年間スケジュールからやむをえない面もあるでしょうが、そうなら施設見学などにしてしまう方法もあります。

私は、野外活動を楽しむ人なら、ハチに刺された経験が一度もないよりはあった方がよいと考えています。刺傷の痛みや危険についての評価がある程度は的確にできるようになると思うからです。もちろん、アレルギー体質でなければ、という話です。子どもの場合も同じです。しかし、それが学校の遠足でとなると、話は別です。遠足のときのように集団行動のなかで襲われたケースでは、その後に経験を役立てることは難しく、精神的な傷にもなりかねません。しかも、大勢の人間が巣の近くをわいわいがやがや通れば、ハチのほうもパニックになってしまい、1頭や2頭に刺されるのでは済まず、重大な事態になる恐れがあります。

一度事故を経験した学校は慎重になると思われますが、そうなる前にハチの危険についてよく検討する必要があると思います。

---

## 参考文献・ウェブサイト

---

松浦誠（1988）『スズメバチはなぜ刺すか』pp291. 北大図書刊行会 = 2,500円 + 税

中村雅雄（2000）『スズメバチ 都会進出と生き残り戦略』pp206. 八坂書房 = 2,000円 + 税

『都市のスズメバチ』

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~vespa/>

『vespa』 <http://www005.upp.so-net.ne.jp/vespa8/>